

活動概要

貢献しているSDGs目標

4, 17を中心に全目標

- 学長のリーダーシップの下、SDGs達成の観点を取り入れた大学運営を全学的に進めることで、大学の教育研究活動と社会貢献・交流事業等による学術的寄与の促進と、社会課題を発見・解決する実践力を持つグローバル人材の育成、ならびに地域と国際社会とのより一体的なパートナーシップ構築のための取組を推進。
- 持続可能性への貢献を謳う理念・目的の下、10年余のユネスコチェアとESD推進による人材育成の実績を踏まえて、今年度から広くSDGsの達成への貢献と大学運営を共鳴させた活動(例:SDGsに関する行動指針, SDGs達成に向けた取組事例集)を新たに開始。

SDGs実施指針における実施原則(本アワード評価基準)

普遍性: SDGs達成の観点を取り入れた大学運営を、国内外の機関と連携し、活動内容を共有しロールモデルとなりうる。

包摂性: 学内職員のダイバーシティを重視し、学術的取組においても女性、性的少数者や障害者の課題を取り上げている

参画型: 研究対象に脆弱な立場の人々を組み込み、大学構成員が当事者意識を持ってSDGsに取り組むよう推進。
また、国際的な学術機関や自治体等とも連携。

統合性: 各研究における経済・社会・環境の各側面の関連性や相乗効果を可視化し、学内で相互作用をはかる。

透明性と説明責任: 本活動につき、大学内部や外部有識者により定期的に評価している。公表性の面では、SDGs専門ホームページを整備。

Okayama University's collective action and response to the SDGs through multi-stakeholder partnership



再生可能エネルギー（木質バイオマス）に関する教員養成

